

復興力を合わせて

3月24日、湊地区の被災者と一緒に
なって、津波による漂流物の撤去作
業に汗を流す災害ボランティア



災害緊急特集

大津波襲来

P 4—19

市長メッセージ

東北地方太平洋沖地震と津波襲来にあたり

市民の皆様へ

去る3月11日(金)14時46分ごろ、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生し、久慈市では震度5弱を観測しました。

この地震により太平洋沿岸を中心に非常に大きな津波が襲来し、甚大な被害をもたらしたところでもあります。

このたびの災害により、被災されました方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

市は14時49分に東北地方太平洋沿岸に大津波警報が気象

庁から発表されたことに伴い、同時刻「久慈市災害対策本部」を設置し、久慈消防署および久慈市消防団をはじめとする関係機関と連携して、久慈湊、諏訪下、小袖、久喜地区の海岸水門の閉鎖、避難誘導、海面の監視など、その対処に努めたところでもあります。

また到達する津波の高さが3m以上と予想されていたことから、ただちに沿岸地区住民1489世帯、4300人に避難指示を発令し、避難を呼び掛けました。避難場所に



懸命に避難を呼び掛ける消防団

は2916人が避難したところであります。

今回の災害では、建物や道路などの損壊、漁船の流出などに加え、電気、水道、通信

等、生活に欠かすことができないライフラインも寸断されました。さらには津波により、尊い命までもが奪われたことは残念でなりません。

津波襲来後、市は直ちに被害状況の把握、行方不明者の捜索活動、障害物の除去活動、ライフライン施設の早期復旧



野田村の支援にもあたった援助隊。市も職員を派遣し野田村を支援しました

などの災害応急対策に取り組むとともに、野田村等の支援についても、陸上自衛隊、緊急消防援助隊などの関係機関と連携し、全力をあげて取り組んできたところです。

また水道が復旧するまでの間、市内各地区で給水車を配置したほか、避難者と高齢者



市役所前にも給水車を配置

等要援護者に向けた物資搬送や炊き出しなどを行い、市民生活への影響と、被災者の不安を少しでも軽減しようとしてまいりました。

今後におきましても、被災した施設等の災害復旧とともに、被害を受けた市民の皆様が速やかに再起できるよう、被災者に対する生活の安定対策などに全力で取り組んでまいります。

最後に、余震の心配がある限り、まだまだ警戒を緩めることはできませんが、市民の皆様と共に、この難局を乗り越えてまいりたいと思います。

久慈市長 山内 隆文

広報発行について おことわり

広報3月15日号

被害の影響から、本来の配布日である3月15日には、広報などの配布を停止。今回、広報4月1日号と合わせて広報3月15日号も配布させていただきました。

3月15日号の掲載内容は3月7日現在のもので、災害の影響で編集当時と状況が変わっている情報もありますので、ご了承をお願いします。

広報4月1日号

広報4月1日号は当初の予定を大幅に変更し、今回の大災害に特化した紙面になっています。

被災した方にとっては見たくもない写真などが多数含まれていると思いますが、全市民に被害状況を知っていただき、復興に向け気持ちを一つにしてほしいと考えました。どうかご理解をいただきますよう、お願い申し上げます。

なお、掲載を予定していた記事については、広報4月15日号以降に掲載させていただきます。

平成23年3月11日（金）14時46分ころ、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生。マグニチュード9.0という世界最大級の地震は、大きな津波を引き起こし、沿岸部に壊滅的な被害を及ぼしました。数十年後、100年後も、決して忘れてはならない未曾有の大災害。この悲惨な状況をすべての市民の皆さんに知っていただき、復興に力を合わせて取り組まなければなりません。今回は、災害緊急特集として津波が襲来する様子や被害の状況などをお知らせします。（19ページまで）

写真…久慈湊地区の住宅を飲み込もうとする津波の第2波（金刀比羅神社より撮影）

災害緊急特集

大津波襲来

無情な津波

大津波警報発表後、すぐに広報担当は海に向かいました。地震発生後のまちと、久慈湊地区の金刀比羅神社から見た津波の状況を、ありのままにお伝えします。

14:46~ 世界最大級の地震 大津波警報発表

3月11日（金）14時46分ごろ、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生。地震のエネルギーを表すマグニチュードは世界最大級の9.0を記録しました。

地震発生時、わたしは市役所3階にいました。はじめ静かに感じられた揺れは、どんどん大きくなり、立っていることも困難に。あわてて階段の手すりにしがみつきました。が、やむ気配のない地震に「階段が落ちるかも」と恐怖を感じ、手を伸ばして今度は壁に揺れが弱まったあと、おびえ

ながら2階の執務室に戻ると、顔をこわばらせた他の職員が立ちすくんでいました。

余震を恐れて市役所の外に飛び出したときでした。防災行政無線から、けたたましいサイレン音とともに「大津波警報」の一声。急いで2階に戻って上着とカメラを手にし、自家用車で諏訪下地区の水門に向かいました。

14:53~ 信号停止で大混乱 必死に避難指示

道路に出ると停電によって信号は停止し、アンバーホールの交差点は大混乱。たくさんさんの車が勢いよく交差し、衝突しそうな車を何度も



信号が停止し、交差点は大混乱

見かけました。わたしの車はまったく進むことができず、市役所から20分しか離れていない水門に着くまでかかった時間は約10分。やっこの思いで着いたときは、すでに水門が閉鎖され、水門の外側には多くの大型車両が立ち往生。消防職員や消防団員は必死に避難を指示していました。



漁協前には大型車両が立ち往生

水門の上から港を見ると、急いで沖に向かう漁船の姿が見えました。車を進め、諏訪緑地まで行くと、消防団員など数人が潮位を監視していました。皆、不安な表情をしていましたが、ここまでは大地震発生と同時に停電などした以外過去に津波の警報・注意報が発表されたときにも見た光景でした。ここまでは。

15:10~ 混雑し進まない車 走って避難所へ

直感的に嫌な感じがしたわたしは、そのまま久慈湊地区津波避難所の金刀比羅神社に向かいました。

市漁協前を通り湊橋をわたって久慈湊地区に。合流先の国道395号は市役所を出たところよりも混雑していました。特に市街地に向かう車線は大



大渋滞で避難もままならず

渋滞で、車が進むスピードは、徒歩と変わらないように感じられました。久慈湊・夏井方

15:17~ 増す不安と恐怖 避難所200人超

面に向かう車線も思うように進まず、わたしは恵愛病院に車を止め、そこから金刀比羅神社に向かつて走りました。

道路沿いに目をやると地震で戸が倒れ、ガラスが割れた民家が。山手に進むとリュックを背負って避難しようとする子どもと高齢者の姿も見え



荷物持参で避難所に急ぐ住民

ました。不安と恐怖が増す中、息を切らして着いた金刀比羅神社には、子どもから高齢者まで200人以上がすでに避難。携帯電話で誰かに連絡をとろうとする人、小さな子どもを抱えあやす人、みけんにしわを寄せ警戒する人…。初めて見る光景でした。

久慈湊保育園の園児と関係者のほか、数人しか避難していなかった3月9日の津波注意報発表時とは大違い。この日の金刀比羅神社は、異様な雰囲気にも包まれていました。

わたしは津波記念碑近くの鳥居をくぐり、階段を登って高見台へ。海を見わたせる場所に陣取ってまもなく、水平線に、今まで見たこともない恐ろしい変化が起きたのです。



社務所への階段まで避難者が。皆、不安な表情を浮かべていました

「ああ、もうだめだ」

15:30～ 海面の異様な変化 まちの盾越える

「ほれ！ 来たぞ！」
大きな声が飛び交い、避難者が一斉に海を指差しました。大尻方面で、波が岩にぶつかり大きなしぶきを上げているのが見えたのです。
「何でえ、ありゃあ！」
正面に目をやると、むくつと海面全体が盛り上がっていました。単に大きい波とは明

らかに違う異様な変化。これが津波のはじまりでした。湾口防波堤を越えて押し寄せてくる津波。海の端から端まで全体が大きな白い壁となりました。

海岸に逃げ場はなし。なす術もなし。漁港や漁船、北日本造船などの工場、大型作業車、自家用車などが、あつという間に波に飲み込まれていきました。
陸地や建物にぶつかり、大

15:35～ 間髪入れずに2波 想像を超える猛威

波は引かず、防潮堤あたりまで上がったままの海面。第2波は、その上から間髪入れずに襲い掛かってきました。
電柱や防潮林をなぎ倒し、すでに浸水した工場や民家の上に容赦なく覆いかぶさる津波。ドバーン！ メキメキ！ 恐ろしい衝突音と破壊音は金刀比羅神社まで聞こえてき

15:53～ 引き波で海底が さらに3波が襲う

第2波の後、海は再び異様な変化を見せました。信じられないほど波が引き、海底がむき出しになったのです。
川や陸地からもいったん波が引き、変わり果てたまちが



まちを飲み込む津波を目の当たりにし、ぼう然とする避難者

きなしぶきを上げた後も津波の勢いは収まりません。地面を削り取り、どす黒くにごった波は、ものすごい勢いで防潮堤に激突しました。
高さ7メートル、延長1305メートルある久慈湊地区の防潮堤。過去の津波による被害を教訓とし、整備した「まちの盾」も津波は乗り越えてしまいました。防潮堤付近の民家などは、あつという間に浸水。高見台からは国道まで水が流れ込んでいく様子がよく見えました。
「ああ、もうだめだ。」
「こんな見たことねえ。」
絶望の悲鳴。避難者のふるえた声が響きました。

わたしは想像を超える津波の猛威を目の当たりにし、カメラを持つ手は震え、寒さなのか恐怖なのか、もう訳が分からなくなっていました。
あたりを見回すと、膝を抱えてうずくまる人、ぼうぜんとして立ち尽くす人、どうしようもできず、暮らしてきたまちが津波に飲み込まれる様子を見つめるしかない人。怒りや混乱というよりも、あきらめのような雰囲気漂っていました。



1 / 15:30ころ。むくつと盛り上がる海面
2 / 15:32ころ。海面の端から端まで高く盛り上がり、白い壁のようになって襲い掛かる津波
3 / 15:33ころ。勢いよく陸地にぶつかる津波。7メートルの防潮堤のはるか上

4 / 15:34ころ。防潮堤を越え、木々をなぎ倒し、フェンスを折り曲げて民家に襲い掛かる津波。この背後には第2波が
5 / 15:36ころ。第2波襲来。海面は上昇し、見えるはずの防潮堤は見えない
6 / 16:09ころ。引き波で海底があらわに



16:20～ 遡上し久慈川増水 止まらない震え

姿を現しました。浸水した家、傾いた家、もとの形や場所が分からなくなるほど壊れたり、流された家もありました。
それでも津波は収まりません。引いた波を倍にして押し返すように、第3波がまちを襲いました。何度も繰り返し襲う津波。命を育み、恵みを与えてくれる普段の海の優しさはみじんも感じられません。この日の海は、ただただ、無情でした。

第3波後、同僚から「市役所は無事」との電話連絡。海の様子を見計らい、わたしは市役所に戻ることにしました。浸水し、泥で埋め尽くされた国道を走り、恵愛病院へ行



浸水し、泥にまみれた国道395号

ってみると、がれきに囲まれながらも自家用車は何とか無事。まだ震える手でハンドルを握り、市役所に急ぎました。途中、川崎大橋から下をのぞくと、津波が遡上し堤防ぎりぎりまで増水した久慈川の姿がありました。にぶく不気味に光って見える水面。もし川が決壊していたら市役所も市街地も無事では済まなかったでしょう。想像すると恐ろしくてたまりませんでした。
最後まで止まらない手の震え。カメラバッグを腕で抱え、市役所の執務室に戻りました。今振り返ると、このときは津波から逃れることで精一杯で、考えてもいませんでした。他の沿岸部の惨状を。



津波が遡上し、決壊寸前となった久慈川

惨状と混乱

津波によって、水門の上や外に漁船が打ち上げられた久慈港諏訪下地区。工場など、周囲一帯が、がれきの山と化してしまいました



世界最大級の地震が引き起こした津波のすさまじい威力。沿岸部には惨状が広がり、停電、断水、物資不足などによって全市民の生活が大混乱に陥りました。

壊滅的被害 尊い命も

3月11日14時46分ころ発生した東北地方太平洋沖地震。久慈市では震度5弱を観測しました。14時49分、大津波警報が発表されると同時に、市は災害対策本部を設置し、沿岸地区に住む1489世帯4300人に避難を指示。消防職員、消防団員などは久慈湊諏訪下、小袖、久喜4カ所の水門を15時まで閉鎖し、懸命に避難を指示して回りました。

しかしマグニチュード9.0という世界最大級の地震が引き起こした津波の威力はすさまじく、沿岸全地区に惨状が広がりました。すべての漁港施設が損壊や



地上施設がほぼ全壊した国家石油備蓄基地。辺り一面が信じられない光景に

ライフラインも断絶

想像を絶する甚大な被害に加え、停電と断水、電話も一部不通。さらには大きな余震が続いた影響で、11日の避難者は全体で約3000人。市が指定する避難所だけでは足

流出などで大打撃を受けたほか、漁船は全体の9割以上となる572隻(※)が被害に。家屋など建物への被害も大きく、非住家含みで全壊が218棟、半壊は86棟にもおよびりました。(※)

このほか久慈港半崎地区では、久慈国家石油備蓄基地の地上施設がほぼ全壊。北日本造船久慈工場も壊滅的な被害を受けました。

また市の施設である地下水族科学館もぐらんぴあ、もぐらんぴあレストショップも全壊。昨年8月に開所したばかりの海女センターは、施設すべてが流出し、跡形もなくなっていました。

死者3人、負傷者7人(救急搬送)、行方不明者2人。(※) 尊い命までもが津波によって奪われました。



11日夜、1,000人近くが避難した福祉の村。入り切らず、車内で一晩を過ごす人も出ました



すべての棚が空になった市内スーパーのカップラーメン販売コーナー

カップラーメンなどの保存食は売り切れに。電池や医薬品など、物資の不足が続きました。

電気・水道・通信事業者などが不眠不休で必死に復旧作業を進めたことにより、電気や水、電話などが徐々に回復すると、今度はガソリンや灯油などの燃料不足が顕著に。地震直後は、公共交通機関もストップしていたため、ガソリンスタンドでは、燃料を求める車が1キロ以上にわたって渋滞するという異常事態が毎日のように発生しました。

あまりに深い爪あと

東北地方太平洋沖地震という未曾有の大災害は、すさまじい惨状と、生活の大混乱を引き起こしました。

強い揺れで終わらない。大津波でも終わらない。すべての人の生活に暗過ぎる影響を及ぼした今回の災害の爪あとには、あまりにも深く、大きいものでした。

次のページでは、津波による主な被害状況を写真でお伝えします。

※被害の数値はすべて3月26日現在のものです



漁港施設

漁船の損壊や流出だけでなく、漁港施設までもが大打撃を受けました

横沼漁港



年末年始の低気圧による被害が収まる前に津波の追い討ち。漁港施設がさらに大きく損壊しました

久慈港(諏訪下)



打ち上げられた漁船が流れ込んだ魚市場。施設も破壊され、大きな打撃を受けました

小袖漁港



北限の海女で全国に知られる小袖地区。漁港施設、荷さばき所のほか、トイレなども全壊しました

久喜漁港



漁港施設が全壊。漁業集落排水施設やトイレ、漁港と集落をつなぐ橋までもが破壊されました

産業施設

沿岸部に立地する工場など産業施設。壊滅的な被害を受けました

久慈国家石油備蓄基地



一帯に広がる惨状。すべての屋外タンクが破壊され、地上施設は壊滅的な被害を受けました

北日本造船久慈工場



雇用の拠点の一つとなっていた北日本造船久慈工場。外壁はえぐり取られ、屋内設備も損壊しました

久慈市冷凍水産加工業協同組合



一帯ががれきの山。この工場だけでなく、諏訪下地区に立地する多くの事業所が被害を受けました

マルサ岬岬商店久慈工場



平成19年に立地した新工場。壁は一部残ったものの、周辺の工場と同様に大きな被害を受けました

観光施設など

市内外の人に親しまれた観光施設など。変わり果てた姿となってしまいました



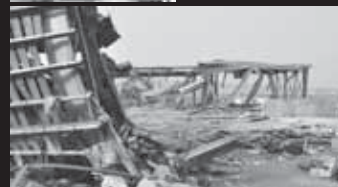
もぐらんぴあ



本市の代表的な観光施設もぐらんぴあも全壊。隣のレストショップは、屋根が残ったのみでした



漁協施設(二子)



二子朝市が開かれていた出張所など漁港施設も全壊。周辺の民家なども大きな被害を受けました



舟渡海水浴場



市内唯一の海水浴場として親しまれた舟渡海水浴場。シャワー室のほかレストハウスも全壊しました



海女センター



昨年8月1日に開所したばかりの海女センター。津波によって施設すべてが破壊され、流出しました



1 / 久喜地区。10本の防潮堤を越えて襲い掛かった津波。1階がない家、屋根だけ残った家、すべてが流された家…。変わり果てた惨状が広がりました
2 / 久慈湊地区。かるうじて残った家も、中ががれきと土砂で埋め尽くされました
3 / 半崎地区。原型をとどめないほどに破壊された車
4 / 玉の脇地区。多くの民家が犠牲になり、道路の両脇はがれきの山
5 / 久慈湊地区。どれが製材所の木材か、建物の破片が見分けもつかないほどの被害

悪夢のような沿岸の惨状

被害知りえない人へ

今回の津波で、沿岸地区は壊滅的な被害を受けました。1階部分がごっそり無くなった家、だるま落としのように屋根だけが残った家、すべてが流され跡形も無くなってしまった家…。生活と家族の拠点を失った人がいます。家は無事でも漁船や職場に被害を受け、生活の術を失った人もいます。また、どちらも失った人もいます。
記録写真を撮るため、被災地を回っているとき、いろいろな声を聞きました。
「借金が終わったばかり。これからだったのに。」
「命は助かった。これで良かったと思えばいいのか…。」
掛ける言葉は見つかりません。どんな顔をしていいのかわかりません。ただただ胸が痛くなりました。
あまりにもひどい仕打ち。牙をむいたときの自然は、こんなにも恐ろしいものかと、今でも恐怖を感じます。
市内の被害状況を知りえていない人もいることでしょう。

被害状況

ここに掲載した写真は、ほんの一部です。被災した人がどんなに大変な状況にあるか。直接、話を聞くことができなくても、写真を見れば想像できるのではないのでしょうか。
人ごとでは済みません。たまたま沿岸部を通りかかったとき、津波に襲われるかもしれない。津波だけでなく、他の自然災害に見舞われるかもしれない。悪夢のような惨状を引き起こしてしまう津波や自然の恐ろしさを、どうか目に焼き付けてください。

【人的被害】

- 死者：3人
- 負傷者：7人（救急搬送者のみ）
- 行方不明者：2人

【建物等被害（非住家含む）】

- 全壊：218棟
- 半壊：86棟
- 床上浸水：396棟
- 床下浸水：175棟
- 船舶：572隻

【その他】

- 火災：1件

※すべて3月26日現在

懸命



大災害によるすさまじい被害とライフラインの断絶。そんな中、混乱と不安を取り除き、被災者の助けになろうと、懸命に活動続ける人たちがいました。

果敢に奮闘し続ける

すさまじい被害に、電気・水道などのライフラインの断絶。戦後最大とも報道されるこの困難な状況に、果敢に立ち向かった人たちがいます。電気・水道・通信事業者などは、生活の混乱と、市民の不安を取り除くため、不眠不休で作業。対応も早く、3月11日の深夜も東北電力の職員などが通電に向け、奔走している姿が見られました。結果、12日夜には市街地などで電気が復旧。13日には水道も市内の一部で通水するなど、電気・水道・電話等が徐々に復旧していきました。

被害を最小限に食い止めようと、水門の閉鎖や避難誘導に当たった消防職員や消防団員は、そのまま夜を徹して活動。翌日からは被害状況の把握や、がれきなどの撤去、行方不明者の捜索などと、奮闘し続けました。

奮闘したのは医療機関も同じです。久慈医師会と県立久慈病院は協力して、避難所の巡回なども実施。県立久慈病

院では救急患者の治療に対応し続けるなど、非常事態の中、各医療機関が一人でも多くの命を救うために、治療にあたりました。被害に加え、燃料不足などでストップした公共交通では、市民バスと三陸鉄道が3月16日から臨時ダイヤで運行を再開。三陸鉄道は「災害復興支援列車」として久慈・野田間の無料運行を実施しました。

全国各地から応援が

大災害からの応急対策を支援しようと、全国各地から久慈に駆けつけた人たちもいます。自衛隊員や消防職員、そして警察官です。北は北海道から南は沖縄まで。全国から集まった頼もしい応援隊は、縁もゆかりもないであろう、この久慈地区のために力を尽くしてくれました。

避難者への炊き出しや給水、救援物資の搬送、信号停止時の交通誘導、危険が伴う漂流物の撤去作業、行方不明者の捜索など、それぞれが専門的な技術とノウハウを駆使して活動し続けました。

広がる助け合いの輪

厳しい状況の中、避難所などでは地域で協力し、助け合いました。食事の用意や被災した家の片付け作業など、人も物も不足する中、温かい言葉と行動で、被災者を励まし続けました。

そうした助け合いの輪は、まち全体にも広がりました。3月18日、久慈市社会福祉協議会が主体となり「久慈地区災害ボランティアセンター」を立ち上げ。市民ボランティアの募集を開始した19日には、受付先の市役所に老若男女153人が集まり、初日から夏



3月19日。夏井町大崎地区の民家から津波で流されてきた木を運び出す災害ボランティア

井町と長内町で被災者の家の片付け作業などを行いました。その後もボランティアは増え続け、20日は活動場所に久慈湊地区と野田村を追加。男女問わず中学生から年配者まで、誰もが必死になって作業しました。3月26日現在、ボランティアの登録者数は451人にのぼっています。

また高校生ボランティアグループのSEEDとグリーンピースは、21日から市内2カ所で募金活動を開始。「よろしくお願ひします!」と大きな声で募金を呼び掛けました。災害ボランティアとしても活動した間澤智大くん(久慈高2年)は「ボランティアで被災地に初めて行き、被害の大きさと復興に向けて頑張っている被災者に接しました。ぼくたちも少しでも助けになりたいです」と、募金活動に声を枯らしました。

一番大変で、つらい思いをしているのは被災者。その助けになるように、多くの人が懸命に活動を続けています。復興に向けた支援と助け合いの輪は、日に日に強く大きくなっています。

久喜小学校

久慈中学校



前に、前に

被災者が出た小・中学校6校のうち久慈中学校と久喜小学校の卒業式を取材。そこには力強く前に進もうとする子どもたちと、支える大人たちの姿がありました。



卒業証書を受け取る前児童会長の坂本莉奈子さん

家屋に漁港、漁船など、災害の爪あとが深く刻まれた久喜地区。津波に襲われた3月11日、久喜小学校（澤田晶子校長・児童61人）は午前授業で、地震発生時、児童はすでに下校してばらばら。地域の人たちの避難誘導で助かったものの5人が住宅を流されるなどの被害を受けました。同校の卒業式は、臨時休校明けの3月18日。災害以降、避難所での生活を続ける児童も含め、全員が出席しました。一人一人の長所を紹介しながら卒業生10人に卒業証書を手渡した後、澤田校長は「家

旅立ち 勇気を胸に

族の皆さん、地域の皆さん、子どもたちの命を守ってくれてありがとうございます。卒業生の皆さん、夢は生きていればこそかなえられるものです。自分の命も、他人の命も大切に生きてください」と強い思いを。仲村正和PTA会長は「津波は怖かったでしょう。でも、みんながでげずに励ましあってください。久喜地区の将来を担う皆さんの未来が明るいことを祈ります」と願いを込めました。卒業生は門出の言葉で「たくさんの人に守られ、支えられてきたことへの感謝を忘れず、勇気を胸に旅立ちます」と大きな声。不安な心を抑えて胸を張り、たくましい姿を見せました。下級生や保護者教職員からは温かい拍手。多くの人に見守られ、10人は未来へ一歩、踏み出しました。



「命を大切に」と澤田校長



「手を携えて」と川又会長

市民の足である市民バスと三陸鉄道が一部運行を再開した3月16日、予定から4日遅れて久慈中学校（宇部澄男校長・生徒523人）の卒業式が開かれました。大災害が発生した3月11日は、当初予定していた卒業式の前日。生徒、教職員も全員無事でしたが、約20人が住宅などに大きな被害を受けました。しかし卒業式は、厳しい状況にも負けないという意思表示をするかのように、滞りなく進行。卒業証書の授与に続き、宇部校長は「未曾有の災害を教訓として、助け合い、困難を乗り越えていってください」と卒業生171人にエール。川又裕吉PTA会長

困難乗り越える決意



しっかりと前を向き、退場する卒業生

は「災害で見通しがつかないほどの甚大な被害を受けた今、わたしたちに必要なのは手を携えて助け合っていくことです。元気に、元気に、暮らしていきましょう」と勇気づけました。卒業生を代表し、川又康了くんは「以前のよう暮らしに戻るためには、さまざまな問題に立ち向かっていかなければなりません。みんなで支え合い、困難を乗り越えていきます」と力強く決意を述べました。卒業生、在校生、教職員、保護者の一体感が感じられた卒業式。卒業生は誰もがしっかりと前を向き、学び舎を巣立ちました。

力を合わせて

言葉も出ない

これが久慈か。
津波襲来後、被害状況を記録するために沿岸地区を回ると、目を疑う光景が飛び込んできました。
信じられないほどにさまざまな被害。小さいころ家族でドライブに行った海。友達と遊んだ海水浴場。自分も従事したイベントの会場。取材で行った漁港や観光施設……。どの場所に行っても、そのときの姿かたちはまったく残っていませんでした。
ぼう然として、言葉も出ません。かわりに涙があふれました。

悲しすぎる現実。そこに住み、働き、被害にあった人たちは、どんなにつらく悲しいのだろう……。想像すると、話を聞くことさえもためらわれました。

今はまだ、話をしたくない、思い出したくない、考えたくない人もいます。わたしは被害にあった人に今の気持ちを聞くかわりに、今の状況を写真で残そうと決めました。惨状を切り取った写真が、たとえすべてではなくても、つくづく悲しい被災者の気持ちまでも伝えてくれると信じたからです。
頭を下げ、一枚。また一枚。何枚も何枚も写真を撮りました。

今こそ

そんな中、驚くほどのスピードで漂流物やがれきなどの撤去作業は進められていきました。さみしい反面、復興に向けた勢いのようなものも感じられました。

被災した人からも、悲しみやつらさだけでなく、力強い声も掛けられました。
「また頑張っけえな！」
「どうにかなるさと思わなればなんねえし、どうにかしねえばなんねえ！」
再開に向け、すでに漁船を発注している漁業者もいます。悲しみやつらい気持ちを抑え込み、被災した人たちは立ち

上がろうとしているのです。必死に活動する災害ボランティアの一人が言いました。
「親友も被害を受けました。自分も何とかして被災者の助けになりたいんです」。

非常事態。大きな困難に直面した今こそ、全市民が気持ちを一つにし、力を合わせて、助け合っていくべきではないでしょうか。
これまでも久慈市は津波などの災害を何度も乗り越えてきました。全市民の気持ちと力を合わせれば、今回の大災害も乗り越えられるはず。記録的な被害の次は復興の記録を。全市民一丸となって、この大災害を乗り越えていきましょう。

今こそ

気持ちを一つにするとき

今こそ

力を合わせるとき

これまでも、これから

災害はきつと乗り越えられる

この大災害。全市民で

乗り越えていきましょう



ボランティア活動初日の3月19日。土煙とほこりが舞う中、被災者と共に必死になって作業を進める災害ボランティア

今回の災害で被害を受けた人を対象とした、主な支援制度をお知らせします。
詳しくは、担当課にお問い合わせください。

はじめに 支援を受けるには「り災証明書」が必要です

被災者が、資金の貸付や給付、現物支給などの支援を受ける手順は次のようになります。

1. 「り災証明書」の発行を受ける

住宅の被害状況を確認するための証明書です。窓口は市役所1階市民課（☎52-2117）になります。印鑑をお持ちください。

2. り災証明書の「建物被害」欄を確認

被害状況に応じて、「○印」が付いた支援が受けられます。区分は右表を、制度の内容は下記をご覧ください。

	全壊 (流出)	大規模 半壊	半壊	一部破損 床上浸水	その他
①被災者生活再建支援制度	○	○			
②災害援護資金の貸付	○	○	○		
③住宅の応急修理 ※応急仮設住宅などに入居していない方	○	○	○		
④生活必需品の給与	○	○	○	○	
⑤生活福祉資金制度の貸付(福祉費)	○	○	○	○	○

1 被災者生活再建支援制度

☎社会福祉課 ☎52-2119

内容…支援金

被災した世帯に支援金を支給します。支給額は次の2つの合計額になります。

※世帯人数が1人の場合は、3/4の金額になります

■基礎支援金（住宅の被害程度に応じて支給）

- 支給額…①全壊など 100万円
- ②大規模半壊 50万円

■加算支援金（住宅の再建方法に応じて支給）

- 支給額…①建設・購入 200万円
- ②補修 100万円
- ③賃貸（公営住宅を除く）50万円

【例】全壊し、新たに住宅を建設・購入する場合は300万円を支給（基礎100万円+加算200万円=300万円）

【活用できる人】

全壊（流出）	大規模半壊	半壊	一部破損・床上浸水	その他
--------	-------	----	-----------	-----

【申請期間】

支援金の種類によって異なります。2つの支援金を受けるには、①の期間で申請ください。

- ①基礎支援金…被災後1年1カ月以内
- ②加算支援金…被災後3年1カ月以内

2 災害援護資金

☎社会福祉課 ☎52-2119

内容…資金貸付

生活の再建に必要な資金を貸し付けます。

限 度 額	■世帯主に1カ月以上の負傷がある場合	
	①負傷のみ	150万円
②家財の1/3以上の損害	250万円	
③住居の半壊	270万円	
④住居の全壊	350万円	
限 度 額	■世帯主に1カ月以上の負傷がない場合	
	①家財の1/3以上の損害	150万円
	②住居の半壊	170万円
	③住居の全壊（④を除く）	250万円
④住居全体の滅失、流出	350万円	

【活用できる人】

全壊（流出）	大規模半壊	半壊	一部破損・床上浸水	その他
--------	-------	----	-----------	-----

※ただし所得制限があります。金額は市民税における平成21年の総所得金額です ◆世帯人員1人…220万円◆世帯人員2人…430万円◆世帯人員3人…620万円◆世帯人員4人…730万円◆世帯人員5人以上…5人目から1人30万円を加算。ただし住居が滅失した場合は1,270万円

【申請期間】

6月30日（木）まで

3 住宅の応急修理

☎社会福祉課 ☎52-2119

内容…修理代行

自ら修理するのが困難な世帯に対して、被災した住宅の居室、台所、トイレなど日常生活に必要な最小限度の部分を応急的に修理します。

修理は、久慈市が業者に委託して実施します。

■修理限度額

- 1世帯あたり52万円
- ※同じ住宅に2以上の世帯が同居している場合でも1世帯とみなされます

【活用できる人】

全壊（流出）	大規模半壊	半壊	一部破損・床上浸水	その他
--------	-------	----	-----------	-----

※ただし応急仮設住宅などに入居していない方

【申請期間】

被災後1カ月以内。予定のある方は速やかにお問い合わせください。

5 生活福祉資金制度の貸付（福祉費）

☎久慈市社会福祉協議会 ☎53-3880

内容…資金貸付

被災したことで、臨時に必要なとなった費用を貸し付けます。

■福祉費の限度額など

限度額	利率	据置期間	償還期間
150万円	保証人あり…無利子 保証人なし…年1.5%	6カ月以内	7年以内 (目安)

【活用できる人】

全壊（流出）	大規模半壊	半壊	一部破損・床上浸水	その他
--------	-------	----	-----------	-----

4 生活必需品の給与

☎社会福祉課 ☎52-2119

内容…現物支給

住宅の損壊、浸水など、災害で生活上必要な衣類、寝具、その他日用品などを失ったり、損害を受けた場合に、日常生活を営むのに最小限必要なものを給与します。

【例】対象となる物…衣類、布団、調理器具、炊飯器、食器、暖房器具など

ただし、災害により失った物の補償や、見舞品という性格のものではありません。住宅被害の要件を満たしていても、別に保管したものがあつたり、寄贈を受けたりしていれば給与対象外となります。

【活用できる人】

全壊（流出）	大規模半壊	半壊	一部破損・床上浸水	その他
--------	-------	----	-----------	-----

「り災証明書」がなくても利用できる貸付制度

■緊急小口資金（特例貸付制度）

災害などで、緊急かつ一時的に生計が困難な場合に貸し付けます。 ※左の生活福祉資金制度の一部です。同制度には通常の貸し付けもあります

限度額	利率	据置期間	償還期間
10万円	無利子	1年以内	2年以内

☎久慈市社会福祉協議会 ☎53-3880

■応急生活貸付資金の貸付 ※保証人が必要 応急的に生活資金が必要な世帯に貸し付けます。

限度額	利率	据置期間	償還期間
5万円	無利子	1年以内	2カ月以内

☎社会福祉課 ☎52-2119

平成23年東北地方太平洋沖地震久慈市地震災害義援金

義援金募集

皆さんの
支援を!!

市では、市内の被災者を支援するための義援金を募集しています。市役所では現金による義援金も受け付けています。皆さん、ご協力をよろしくお願ひします。

☎社会福祉課 ☎52-2119

- 振込先…岩手銀行久慈中央支店／普通預金2057188
- 口座名義…久慈市地震災害義援金
- 受付期間…9月30日（金）まで
- ※備考欄に納入者名を記入。礼状発送のため入金前に社会福祉課へご連絡願ひます

1 市税の軽減・減免と納付猶予

☎税務課 ☎52-2114 ・ 収納対策課 ☎52-2368

■市税の軽減・減免

災害による税金の軽減・減免があります。住宅や家財、事業用の資産（船、小屋など）に損害を受けた場合は、税務課までご相談ください。

■市税の納付

災害により、納付を猶予する場合があります。収納対策課までご相談ください。

3 国民年金保険料の免除

☎二戸年金事務所 ☎0195-23-4111

今回の災害によって住宅、家財、その他の財産について、おおむね1/2以上の損害を受けた人は、申請により国民年金保険料が全額免除になります。

7月末日までに、二戸年金事務所か、市民課（☎52-2118）で免除申請の手続きをしてください。 ※対象や手続き内容など、詳しくはお問い合わせください

【口座振替の利用者へ】

保険料の口座振替を利用している人で、被災により今後の納付が困難な方は、口座振替の停止手続きが必要です。速やかに二戸年金事務所にご相談ください。

2 軽自動車税の取り消し

☎税務課 ☎52-2114

今回の災害によって使用不能になった軽自動車に限り、申し出により平成23年度軽自動車税の課税を取り消します。印鑑を持参し、税務課に申し出てください。ただし、修理をして今後使用する車両は対象外です。

■対象車両

- ①久慈市の標識交付を受けた原動機付自転車、小型特殊自動車など
- ②久慈市に登録のある四輪の軽自動車、125cc を超えるバイクなど

■必要なもの

印鑑、申出書（税務課にあります）
※納付書発送後に申し出る場合は納付書も持参

4 保育料の減免

☎子育て支援課 ☎52-2169

災害により被害を受けた人を対象に、保育料を減免する制度があります。詳しくはお問い合わせください。

災害の生活トラブルQ&A

久慈ひまわり基金法律事務所 峯田幹大弁護士

同法律事務所では当分の間、債務整理などすべての相談を無料で行います。相談予約は同事務所（☎61-1818）へ。

Q. 車、車両保険で直せる？

津波で自動車が動かない状態になってしまいました。車両保険で直してもらうことはできるでしょうか？

A. 特約があれば適用される場合も

通常の車両保険には、地震（津波含む）の場合の免責が定められています。ただし特約がつけられていた場合には車両保険が適用される場合もあります。詳しくは加入している保険会社にお問い合わせください。

Q. 自宅の修理。支援はないの？

津波で自宅の大規模修繕が必要になってしまいました。住み続けたいのですが、今の住宅ローンに加えて修理代金の負担は困難です。どうにかならないでしょうか？

A. 特約があれば適用される場合も

たとえ建物が全壊しても住宅ローンの支払い義務はなくなりません。ただし住宅金融支援機構などは被災者への特約を発表しており、ローンの負担を軽くすることができる可能性があります。詳しくは住宅ローン会社にお問い合わせください。

また大規模修繕が必要な場合の修理代金は、支援金を受給できる場合もあります。（21㉔支援制度の1を参照）

編集
後記

▶想像を絶する被害の影響で広報3月15日号は配布延期。広報4月1日号発行が決まったのは3月21日。全市民に状況を知ってほしい、将来に残したいと思い、編集しました▶被災者の思い。支援者の熱意。すべてを伝えきることはできませんが、少しでも感じ取ってもらえ

ることを願います▶自らが被災しながらも災害対応に力を注いだ市の職員も多数。皆が必死です▶「次は復興の記録を」。24㉔に掲載した栃木県の消防隊員からの熱いエールです。助け合い、力を合わせ、これから復興の記録を、みんなでつくっていきましょう！（八重桜）

災害の影響で、内容が変更になったものなどをお知らせします

延期

選挙

4月10日執行予定の岩手県知事選挙・岩手県議会議員選挙と4月24日執行予定の久慈市議会議員選挙は、延期となります。

☎選挙管理委員会 ☎52-2111内線472

施設

3月25日開設を予定していた消費生活センターの利用を延期します。同センターの電話（☎54-8004）も使用できません。

なお、消費生活相談は平日9時～16時まで、市役所1階・生活環境課で行っていますので、気軽にご相談ください。

同センターで行う予定だった4月の無料相談（法律・人権・行政・くらしとお金・多重債務）は、会場を変更して行います。詳しくはお問い合わせください。

☎生活環境課 ☎54-8003

延長など

市税

入札

税の申告受付期間と納期限は、当面の間、延長になりました。

☎税務課 ☎52-2114 ・ 収納対策課 ☎52-2368

次の平成23・24年度入札参加資格審査申請書の提出期限を延長します。

申請書は市役所2階・財政課、山形総合支所ふるさと振興課で配布するほか、市ホームページにも掲載しています。

- 市営建設工事・建設関連業務…4月28日（木）
- 物品の買入れ等…4月15日（金）

※物品の買入れ等は、入札参加資格者名簿の有効期間を「平成23年5月1日～平成25年3月31日まで」に変更します

☎財政課 ☎52-2113

中止

公演

アンバーホールでは、3月20日の「小谷口直子クラリネットリサイタル」と3月27日の永峰高志芸術監督就任記念コンサート「N響メンバーと仲間たちによるアンバーホール音楽の贈り物」を中止しました。

チケットの払い戻しは、5月30日（月）まで、アンバーホール窓口で行います。チケットを持参の上、お越しください。

☎アンバーホール ☎52-2700

津波で全壊した、もぐらんぴあ、もぐらんぴあレストショップは営業を停止します。

4月開館予定の、あーとびる麦生は開館を延期します。施設に被害はありません。

